

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組では、実践力と創造力を備えた高度な専門性を持つ現代社会で求められる「組込みシステム技術者」の育成を目指します。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

産業界では、コンピュータを組み込んだ様々な機器を統合したシステムの開発技術、信頼性を保証する技術に課題を抱えています。そのため、この分野でイノベーションを起こすことのできる創造性豊かな技術者の育成は重要な課題です。

―なぜこの2大学で連携することになったのですか。

金沢工業大学には実践力に富む人材を輩出する教育システムがあります。また、北陸先端科学技術大学院大学は問題を定義し解決する能力に富み技術イノベーションを創造できる人材を育成しています。この両大学が連携することで実践力と創造力を備えた高度な専門性を持つ技術者を輩出する教育システムの構築が図れます。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は高信頼スマート組込みシステム技術者を育成するために、①教育コースの構築、②学修フィールドの設置、③評価システムの開発、④教材の作成について検討します。平成25年度ではこれらを試行し、平成26年度以降は本格運用と同時に評価と改善を重ねて行きます。取組の期間終了後は、他の分野の技術者育成に展開します。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

ステークホルダーとの連携によって、産業界と共に技術者育成講座や実践的なインターンシップの開発・実施が可能となります。また、組込みシステム技術者を必要とするマイクログリッドをキャンパス内に設置することで、実践的な技術者育成環境が整います。さらに、eラーニング教材や電子書籍化されたテキストの開発も行い、これらの育成プログラムに毎年百人程度の学生が参加します。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもありますか。

が、それはどのようなものですか。

これまでに各々の大学で取り組んできた、社会人を対象とした教育プログラムを発展させます。

また、在学中の学修成果を記録するKIITポートフォリオを利用することで、学生は学修目標を明確にし、学修成果を残すことができます。このシステムにより、毎年百人程度の学生が、個々の目標に応じた学修指導を受けることができます。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

学生は組込み技術者としての能力に加えてジェネリックスキルを身につけます。これらの能力達成度の確認は、評価シートによる自己評価と他者評価および、公開形式の発表会によって確認します。組込みシステムは生活に不可欠な技術になっており、様々な産業分野で活躍できる学生を平成26年度以降は、毎年百人程度を目標に社会に送り出します。

ステークホルダーからのメッセージ

一般社団法人 組込みシステム技術協会 会長

築田 稔

組込みシステムは、機能要求の高度化、規模の増大、複雑化に伴い技術者不足が課題となっています。両大学の強みを結集して、新しい教育システムを構築し、学科の枠を超えてチャレンジできる人材を育成することを要請しました。このような人材は、今後の国際競争力やものづくりの水準を向上させることとなります。本協会では人材育成の強化に向けた取組として、ETEC試験やETロボコンを開催しています。これらには、数多くの社会人技術者も参加しているため、学生の皆さんには、この機会を通して社会人と具体的な交流を行い、社会に出る心構えをしていただければと思います。

